

2001年8月4日

# 応急仮設住宅の生活環境改善のための 統合的実装活動プログラム

福島大学 丹波史紀

# 1. 本実装活動プログラムの目的

- 目的：
  - 東日本大震災で設置される応急仮設住宅において、ハード・ソフトの両面から生活環境の改善を図り、被災者のQOL向上に寄与する。
- 背景：
  - 阪神・淡路大震災の際、コミュニティを考慮しない抽選入居などにより、高齢者をはじめ「孤独死」が社会問題化
  - 新潟県中越地震の際には、プレハブ型の応急仮設住宅の積雪対策が大きな課題
  - 阪神・淡路大震災や新潟県中越地震をはじめとした大災害に際して、中長期にわたる避難生活においては、「コミュニティの維持・再生」が重要
    - とりわけ福島県は原発事故の影響により、家族・地域が離散、見通しの立たない避難生活を余儀なくされている

# 実装の背景

- 2004年の新潟県中越地震の際に、旧山古志村への被災者生活支援を行った共同研究
  - 長岡大手高校による教員・学生による被災者支援
  - 長岡ニュータウン（旧山古志村住民の仮設住宅）での住民悉皆調査の実施
  - 集会所を利用した子ども学習支援
  - プレハブ型仮設住宅における結露・騒音の調査と対策

「平成16年10月新潟中越地震による全村避難地域の復興に関する文理融合総合研究」（文科省科研費基盤研究B）

# 2004年中越地震の際の結露



壁一面の結露で床にはカビが



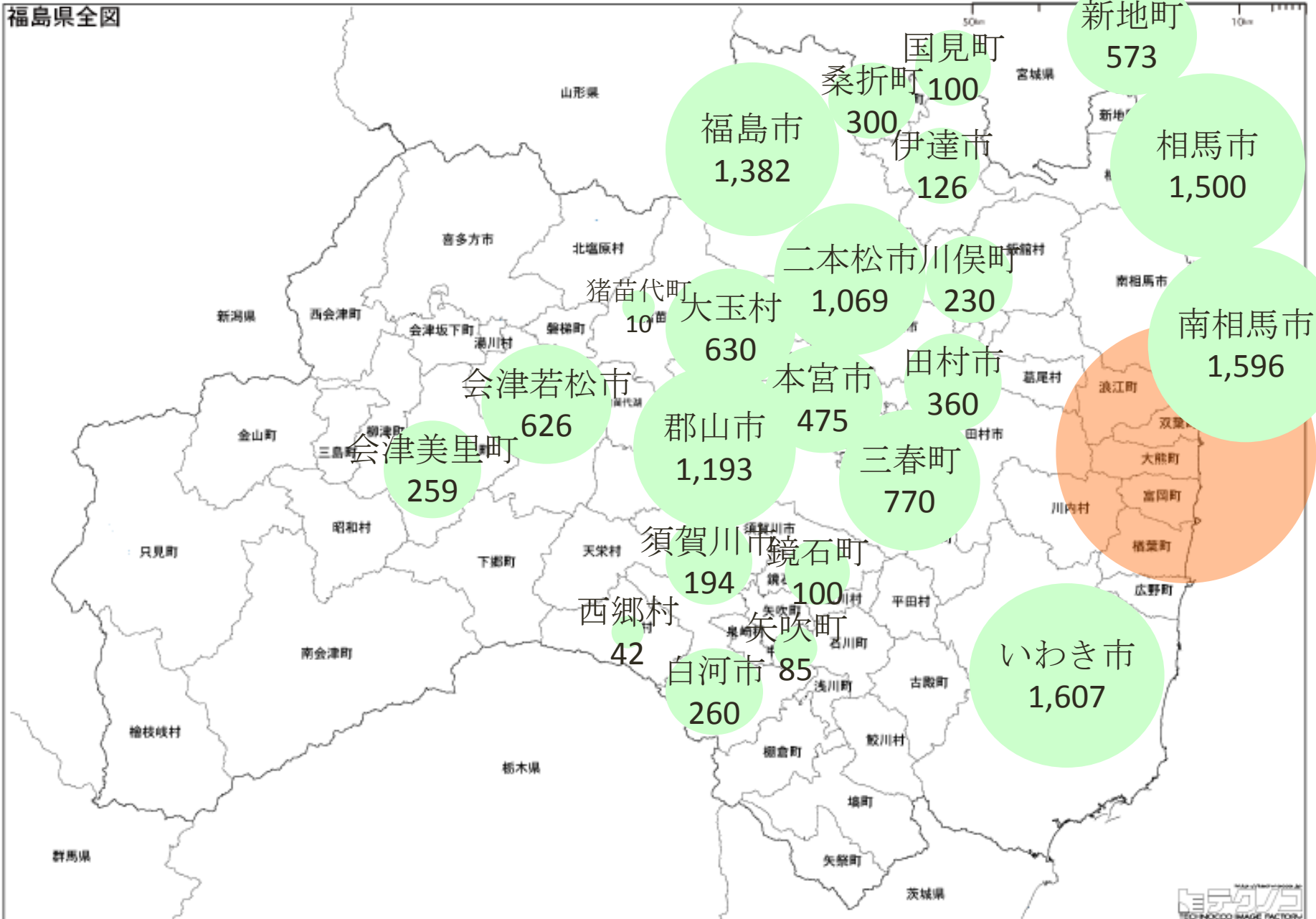
結露でペットボトルで水滴をとる  
入居者

## 2. 実装内容

- 対象地域：福島県
- 実装対象：福島県において建設される応急仮設住宅14000戸のうち、県は独自に発注する4000戸について研究成果の実装
- **ハード面**
  - 環境に配慮し結露や騒音対策にも効果のある仮設住宅
  - 介護拠点やケア付き仮設あるいは診療所や仮設店舗などの生活インフラの一体的な整備
- **ソフト面**
  - 保健・福祉、NPO団体などと連携し、孤独死を生まない支援体制の整備
  - コミュニティに配慮した仮設住宅の運営
  - 子ども・高齢者などへのサポート体制

# 応急仮設住宅分布(13,487戸、7月8日、出所:福島県、※円中の数値は戸数)

福島県全図



# 実装活動の展開①

- 福島県応急仮設住宅建設事業候補者選定委員としてハード面でのアドバイス
  - 県内4000戸のうち3500戸は木造仮設住宅
  - 7月25日第二回住宅建設事業候補者選定・・・さらに2000戸を木造仮設住宅に
  - 全体として、約5500戸が木造仮設住宅となる
    - 木造仮設住宅の長所
      1. 福島県の木材など県産材の活用
      2. 地元の建設業者の仕事づくり
      3. 被災者の雇用確保も重視
      4. 再利用可能など環境にも配慮
      5. 結露対策にも一定の効果



## ログハウス型の木造仮設①

本宮市内





## ログハウス型の木造仮設②

本宮市内



## 建設現場での直接的な実装支援

南相馬市



建設業者によって木造仮設住宅にもバラエティがある

南相馬市



## 伊達市内の木造仮設住宅

伊達市



## 二本松市内の木造仮設住宅①

二本松市



## 二本松市内の木造仮設住宅②

二本松市



## いわき市の木造仮設住宅①

いわき市



**GPSデジカメで撮影し、Googleマップに反映**

いわき市



福島県内の仮設住宅団地を  
すべて記録し、どこにどの  
ような仮設住宅があるかを  
継続的に追跡。

Googleマップで位置を確認  
できるように。

Gmail カレンダー ドキュメント 写真 リーダー ウェブ もっと見る

fuminori.tamba@gmail.com


Picasa ウェブアルバム ホーム マイフォト ピックアップ 菅野紀彦さんのギャラリー

菅野紀彦 > 仮設住宅webアルバム

スライドショー 共有 ダウンロード


菅野紀彦  
枚の写真  
さんをフォロー

2011/07/20  
写真: 423 枚 - 26 MB  
リンクを知っている全員



RSS

写真の場所



2011 Google - 地図データ - 利用規約

マップを表示  
Google Earth で表示

不正行為を報告

# 実装活動の展開②

- **仮設住宅団地内における介護拠点設置**
  - 福島県内の16か所にデイサービスセンターなどの介護拠点建設
  - 建設事業者選定にも委員として関与するが、その後の実際の運用もふくめた具体化において、被災自治体や事業者などと意見交換
    - 飯舘村住民の生活する福島市松川地区における介護拠点の設置など
- **騒音問題改善のための実装支援**
  - 安価な素材を活用し、被災者の生活環境の改善



実装支援チームと飯舘村役場・事業者との運営会議を開催

# 実装活動の展開③

## ● ソフト面での実装

- 浪江町や飯舘村などで、住民を対象にし、自治体・社会福祉協議会・ボランティア等による支援体制の構築
- それ以外にも、NPO団体と協力した支援のプラットフォーム形成
  - 青年会議所やNPO団体と「ふくしま復興連携センター」設立
- 県内学生ボランティアのネットワークづくり



内閣官房ボランティア連携室などとの調整会議 (8/1)

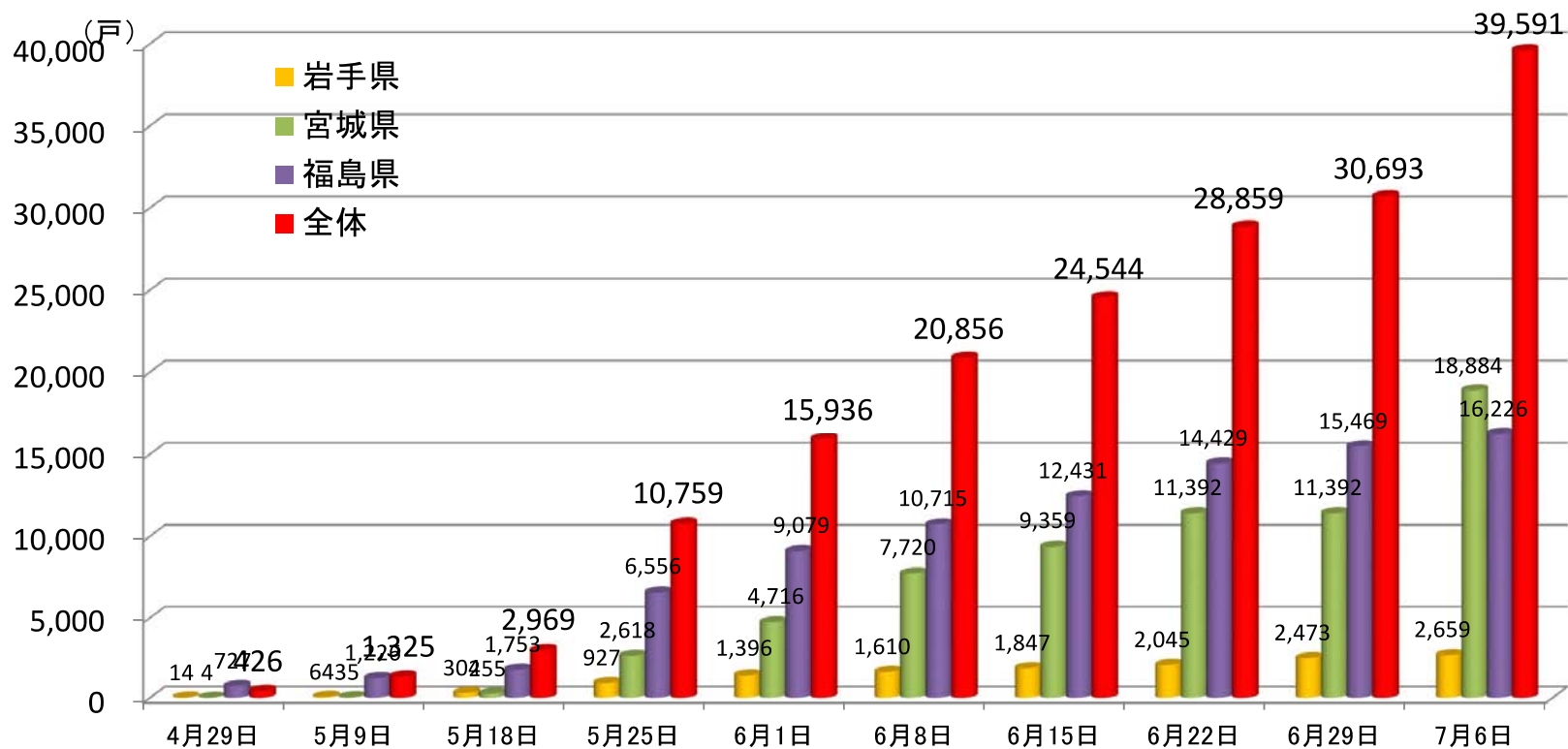


ふくしま復興連携センター設立記念シンポジウム (7/20)

# 現状の課題

- 民間借上げアパートへの補助が支給された事による新たな課題 → 新たな孤立化 「借上げで孤独死を生むな！」
- 家族の離散状況やコミュニティ形成をどう図るか
  - 県外避難者の孤立
- 様々な支援チームの連携・調整
  - 仮設住宅における生活支援相談員（LSA）の見守り支援
  - 医療・保健・福祉専門職の連携
  - 「絆プロジェクト」
- 仮設住宅団地における自治機能の形成

## 民間賃貸住宅の借上げによる応急仮設住宅への入居戸数の推移



※1 各県からの報告に基づき作成

※2 全体には、岩手、宮城、福島以外の県において借り上げているもの(1,822件)を含む。

# 今後の展開

- 様々な支援チームの役割と課題の明確化
  - ふくしま復興連携センターをつうじた調整会議
- 生活支援相談員のスキルアップ
  - 生活支援相談員向けの研修プログラムの実施
- 住民自身が今後の復興やまちづくりに参画できるしくみ



## 飯舘村の今後を話し合う「いいたて有志者交流会」

住民自身が自らの将来を語り合い、今後の村づくりを考える